



# 人の「語り」を聞くということ —インタビュー調査の実践から—

## インタビュー調査はなぜ重要？

4年次になると、文系の学生さんは卒業論文の執筆に向けて準備が必要となります。文系の主な研究手法は、文献調査・アンケート調査・インタビュー調査が主となりますが、その中でも今回は、インタビュー調査について私の経験も踏まえながらお話ししていきたいと思います。

研究のテーマによって、先行研究がほぼない状態、または少ないといった時にインタビュー調査が重要なカギとなります。インタビューは、対象者にただ聞きたいことを尋ねてまとめるのではなく、その人物の「語り」を手がかり（材料）として集め、丁寧に分析することで、その「語り」が最終的に自身の研究の大きな柱となっていきます。さらに、対象者によっては、「〇〇さんにも話を聞いた方が良いでしょう」と、人脈を広げてくれたり、さらに自身の研究の視野が広がっていきます。このように、インタビューでは、研究の目的のみならず人脈の形成や、人の話を上手に聞く力を養うことができます。

## インタビューを行う際の注意点

インタビューを行う際、ぜひ注意した方がよい点がいくつかあります。

一つ目は、メモを必ず取ることです。また、メモだけではなく、ICレコーダーやスマートフォン等で録音も行いましょう。ただし、録音する際は、インタビュー対象者の許可をもらい、研究以外では使用しない旨を伝えましょう。

二つ目は、アポイントの取り方です。アポイントを取る際、インタビュー対象者に失礼がないように電話・メール・依頼状の送付（郵送）が望ましいです。その際、自身の研究目的を簡潔に伝えることも重要です。

三つ目は、相手の「語り」を尊重することです。慣れないうちはどうしても自分の枠に相手の意見を押し込んでしまう傾向がよくありますが、可能な限りで自身の質問をした後は、相手に自由に話してもらうのが効果的です。どうしても、大幅に内容がズレてしまうことがあれば、徐々に軌道修正をして、話を戻していきましょう。また、相手の「語り」を否定することもNGです。自身の考えと一致しない場合でも、否定せずに聞き入れることが大事です。

## インタビューを終えたら

インタビューを終えたら、メモや録音した内容を振り返りながら文字起こしをし、分析を加え論文に落とし込みます。その後、表現の誤りがないかや名前の表記など、インタビュー対象者とともに確認をしましょう。全て執筆し、大学に卒業論文を提出した後は、インタビューに協力いただいた方々に成果物を送ることも大事な作業です。

私の経験上、協力いただいた方々に完成した卒論を送ったところ、全員が喜んでくれました。そして、その方々との交流は今も続いており、現在でも様々な視点でのアドバイスをしてくれます。そのような意味でインタビュー調査は、相手との信頼関係の構築や、人脈の広がりなどにつながっていき、インタビューで得た「語り」は、きっと自身の今後の成長につながると思います。ぜひ、参考にしてみてください！

(地域共創研究科 MI)